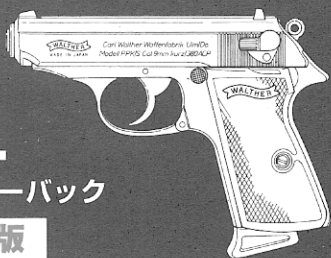


**MARUZEN WALTHER  
NEW PPK/S BLOW BACK  
INSTRUCTION MANUAL**

マルゼン ワルサー ニューPPK/S ブローバック

**使用説明書** **保存版**

★ご使用前に必ず最後までお読みください。

**記 載 内 容**

- ① エアースポーツガン使用上のルール
- ② 製品説明 (各部名称・諸元表)
- ③ 操作方法 (1.~5.)
- ④ メンテナンス
- ⑤ 保管方法
- ⑥ 危険な改造の禁止
- ⑦ トラブルシュート (故障と思われる時)
- ⑧ マルゼン製品の修理について

・この製品にはBB弾と注入ガスが必要です。BB弾は別売マルゼン製BB弾各種、注入ガスは別売マルゼンシューターズボンベ各種を必ずご使用ください。

**⚠ 警 告**

- この製品は18才以上の使用者を対象にした競技用エアースポーツガンです。誤使用や不注意な発射は失明やケガ等の危険があります。50mまでが危険範囲となります。
- ご使用前に使用説明書はすべてお読みください。そして必ず保管してください。説明書を紛失された場合、ただちに当社までご請求ください。購入者及び使用者は説明書に記載されている使用上のルールを守り、操作方法を確実にマスターしてください。

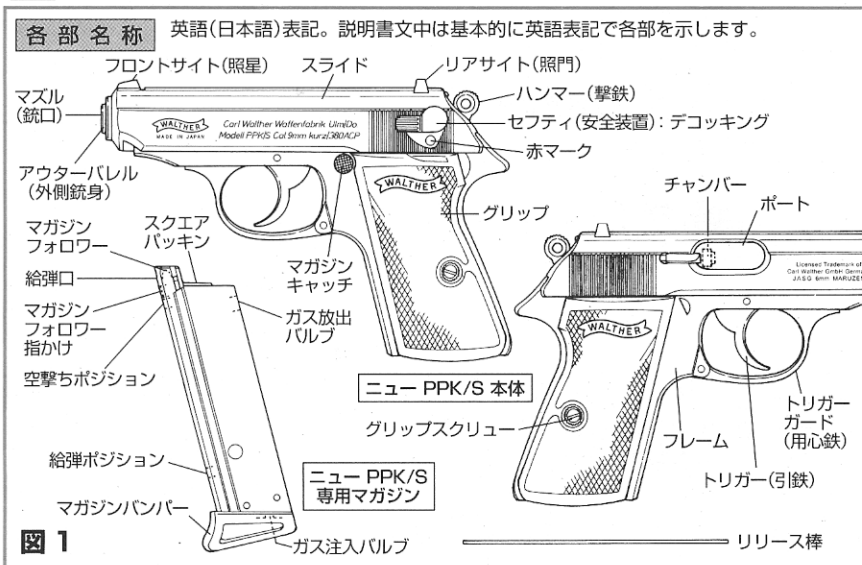
# 1 エアースポーツガン使用上のルール

★エアースポーツガンは、18才以上を対象に製造された競技銃です。競技場所、練習場所をよく考慮したうえで、競技ルール(APSカップルール等)を守り健全にお楽しみください。

## ⚠ 警告：次の14ルールは必ずお守りください。

- ① 使用する時は、その場の全員が眼の保護具(シューティンググラス等)を必ず装着してください。
- ② 給弾の有無に関係なく、銃口は絶対に人や動物等に向けないでください。
- ③ 銃は発射するとき以外は、常にセフティをかけてください。
- ④ 銃は常に装弾されていると思って扱ってください。また、使用時以外は必ず弾を抜いてください。
- ⑤ ターゲットを狙っている時以外は、トリガーに指を触れないでください。
- ⑥ 跳弾及びBB弾の割れる可能性のある固いもの、貫通の可能性のある弱いもの等はターゲットに使用しないでください。ターゲットの周囲にも注意してください。
- ⑦ 銃口は絶対にのぞかないでください。弾があたった場合、失明やケガ等の危険があります。
- ⑧ 銃の分解/改造/加工は修理の為でもやめてください。組み違いによる故障の恐れがあります。
- ⑨ JASG承認のBB弾以外は使用しないでください。
- ⑩ マルゼン純正の注入ガス(シューターズボンベ)以外は使用しないでください。また、ガスボンベ本体の注意書きも必ずお守りください。ガスボンベ・銃(本体・マガジン)共に40℃以上となる場所での使用・保管はお止めください。
- ⑪ マナーとして、競技等の使用時以外は銃を露出させないでください。
- ⑫ 銃により操作方法は異なります。必ずその銃の説明書を熟読して操作に慣れてから給弾してください。
- ⑬ 事故を防ぐのも、起こすのも、銃を手に行っているあなたです。銃の扱いには充分注意して、銃口はいつも安全な方向に向けてください。
- ⑭ 必ず対象年齢以上の方が管理して、対象年齢未満の子供等の手が届かないようにしてください。

# 2 製品説明 (各部名称・諸元表)



## マルゼン ワルサー ニューPPK/S 諸元表

※必ずしもすべての製品がこの数値とは限りません。

( '02/6現在)

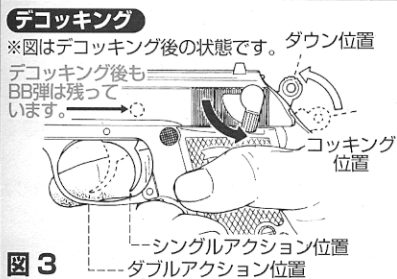
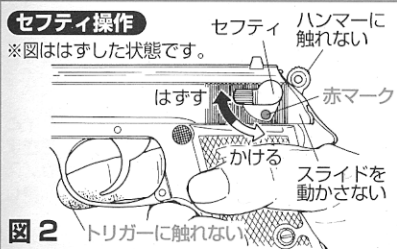
発射方式	ガス式マルゼンブローバック※アドバンスシュートシステム採用		
使用弾	マルゼン製6mmBB弾各種	使用ガス	マルゼン製シューターズボンベ各種
装弾数	22+1発(+1はチャンバー内)	発射数	約40発(マガジンにガス注入1回毎)
最大射程	50m(最適角度で上方に発射した時)		
初速	220fps. (67mps.)	エネルギー	0.45J (0.16kgm/cm <sup>2</sup> )
バレル	81.2mm(外径8mm・内径6.05mm・固定ホップ付)		
セフティ	マニュアル(：手動操作)セフティ(デコッキング機能付)		
サイト	フロント、リア：固定式	重量	380g
全長	158mm	材質	ABS、ジンクダイキャスト等

発射数、最大射程、初速、エネルギーの数値は気温20℃の時、マルゼン製アキュラシーBB弾0.2gを使用した最大値です。

## 3 操作方法 (1.~5.)

**警告** マルゼン製エアスポーツガンは18才以上の方であればどなたでも購入、使用できますが、場合によっては失明やケガ等の危険があります。銃は発射する時以外は、常にセフティをかけてください。また、使用時以外は必ず弾・ガスを抜いてください。(5.発射を終える時の処理を参照)

- 操作手順**
1. セフティ操作(デコッキング)
  2. マガジンの使い方(A.~D.)
  3. 発射
  4. 固定レンジアップ(ホップアップ)について
  5. 発射を終える時の処理
- ※保管する時は ④保管方法を参照



### 1. セフティ操作(：デコッキング)

⇒図2参照

**かけ方**：図2のようにトリガーに触れず、セフティを赤マークが完全に隠れるまで下げてください。トリガー・ハンマーが操作できなくなります。※かける時、及びかけた後はスライドを動かさないでください。

**はずし方**：トリガーに触れずに、セフティを完全に上げ、赤マークを出してください。トリガー・ハンマー・スライドの操作ができます。

**デコッキング** ⇒図3参照

実物同様ハンマーコッキング時にセフティをかけると、デコッキングが働きます。コッキング位置のハンマーを、指で戻す代わりに、安全にダウン位置へ戻す機能です。デコッキング後、トリガーはシングルアクション位置で固定(セフティをはずせば、ダブルアクション位置に)され、ハンマーはダウン位置に戻り、機能しなくなります。デコッキング後の銃内残弾については、2.マガジンの使い方 の ①残弾警告①(マガジンをはずす時)を必ずご参照ください。

**注意**：銃を手にしたら、銃口は必ず安全な方向に向けてください。そして発射する時以外常にセフティをかけて、トリガーには触れないでください。またセフティをかけた後(：デコッキング後)、トリガー・ハンマー・スライドを無理に操作すること(⇒図8・9参照)、及びスライドが引かれている時にかけることは、作動不良(セフティ解除等)・故障の原因になりますので、おやめください。銃はいつも給弾され、発射可能であるとして慎重に取り扱ってください。

★ニュー-PPK/S専用マガジンです。  
旧PPK/Sマガジンとの互換性はありません。

## 2. マガジンの使い方(A.~D.)

△注意：このマガジンはやや重量がありますので、誤って落下させた場合、思わぬケガ・事故の原因となる場合があります。ご注意ください。

### <A. はずし方>⇒図4参照

図4 のように、まずセフティがかかっていることを確認してから、マガジン脱着口の下に手を置き、マガジンキャッチを押してください。  
※旧作と異なり、マガジンは抜け落ちます。落下させないように必ず手で受け止めてください。

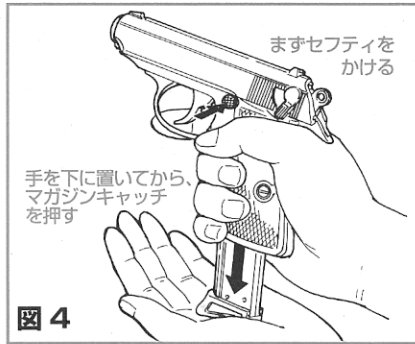


図 4

△残弾警告①(マガジンをはずす時)：実物同様に、この銃は構造上、銃のチャンバー(発射直前のBB弾を保持するバレル基部⇒図1 参照)内にBB弾を送る動作(スライド操作、発射、続くデコッキング等)をした後にマガジンをはずした場合、銃チャンバーに必ず残弾したままになり、大変危険です。続けて撃たない時はただちに5.発射を終える時の処理 に従い、銃内にBB弾の無い安全な状態にしてください。マガジンがついていないというだけで、その銃内にBB弾がないだろうとは絶対に判断しないでください。

### <B. ガスの注入> ⇒図5参照

△警告：必ずマガジンのみでガス注入してください。銃に付けたままでは絶対におやめください。構造上、銃内に残弾したままガス切れ等を起こした状態で、銃に付けたままガス注入を行った場合、注入と同時に弾を発射する危険性があります。充分ご注意ください。

①注入バルブは 図5 のようにマガジンボディと平行に内蔵されています。マガジンを逆さまにして、マルゼンシューターズポンペのノズルが一直線になるように、注入バルブへ差し込み、軽く押し付けてください。

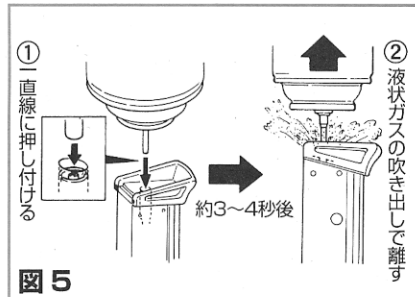


図 5

②約3~4秒後注入音が変わり、注入バルブ周りから液状ガス(いわゆる生ガス)が吹き出たら注入完了です。ポンペをすぐに離してください。ガス注入後は上部の放出バルブに絶対に触れないでください。⇒図14 参照

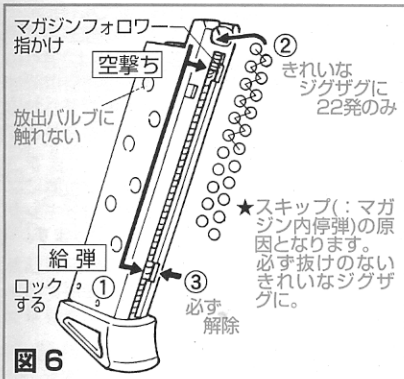
△注意：注入するガスにはマルゼンシューターズポンペを必ずご使用ください。マルゼンシューターズポンペを使用した場合のみ最適の性能が得られるでしょう。他社製ポンペではバルブ径が合わず注入できない場合もあります。また、ポンペノズルとマガジン注入バルブが一直線でない、ガスは外にもれるだけで注入されません。

△注意：マガジンの注入バルブを必ず上(水平)にしてガス注入を行ってください。傾けた状態(斜め・横)で注入されるとガスが入り過ぎ、生ガス発射等不調の原因になります。

### △ ガスポンペ・ガスガン使用上の注意 不燃性・火気厳禁

高圧ガスを使用しており危険なため、下記の注意を守ること。

- ①高温にすると破裂の危険性があるため、直射日光の当たる所や火気等の近くなど温度が40℃以上となる所に製品(ガスポンペ・銃・マガジン等)を置かないこと。
- ②火の中に入れてはいけないこと。
- ③使い切って捨てること。
- ・温風・熱湯等による加温は絶対にやめてください。
- ・暖房器具等の熱源の近く、直射日光及びガラス越しの日光が当たる場所、車中等の高温になる場所に放置または保管しないよう注意してください。
- ・人体には使用しないでください。凍傷になる恐れがあります。
- ・風通しの良い所で使用してください。
- ・中身を使い切って捨ててください。
- ※必ずガスポンペ本体の警告文もお読みください。



### <C. BB弾の給弾>⇒図6参照

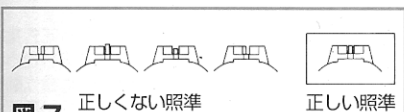
- ① 図6を参考にマガジンフォロワーを下げ、下部切り欠き(給弾ポジション)に合わせ、指かけを横に「カチッ」とスライドさせてロックしてください。
- ② マルゼン製BB弾を給弾口から1発ずつ、抜きの無いきれいなジグザグになるよう、22発まで流し込んでください。ジグザグに抜ける場合、スキップ(マガジン内停弾の原因)になります。充分ご注意ください。
- ③ 続いてフォロワー指かけのロックを必ず解除してください(自動解除ではありません)。解除を忘れると2~3回通常に発射するのみで、その後は銃を逆さにする等で発射する危険な状態になります。

※ロック解除時、給弾が22発未満の場合は、1発飛び出す場合があります。BB弾の飛び出し防止に給弾口を手でカバーしてください。また給弾中、指がフォロワー指かけに触れたりして不意にロックが解除され、BB弾が飛び出さないよう充分ご注意ください。

△注意：BB弾はマルゼン製6mmBB弾各種(APS-BB弾、アキュラシーBB弾等)を必ずご使用ください。これらのBB弾を使用した場合、最適の性能が得られるでしょう。他社製造の直径及び表面処理の異なるBB弾の使用は作動不良の原因にもなります。また、割れた、キズの付いた、変形した、ヨゴレの付いた、一度使用したBB弾及びBB弾以外の異物は給弾しないでください。銃口から直接BB弾、異物も入れないでください。故障の原因になります。

### <D. つけ方>

フォロワー指かけのロック解除をしっかりと確認後、マガジンキャッチがかかるまでしっかりと入れてください。軽く引っ張って抜けない事を確認。また、つけた後はなるべく銃を逆さにしないでください。※このマガジンには構造上23発まで給弾できますが、銃につかなくなります。つかない場合は、リリース棒等を用いて1発抜いてください。



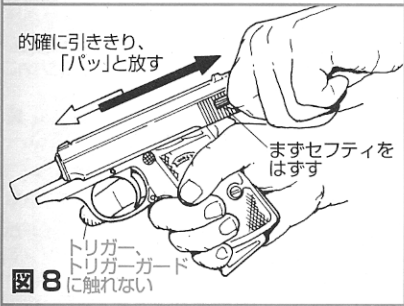
## 3. 発射

### <照準>⇒図7参照

フロントサイトとリアサイトを 図7 の正しい照準に合わせてください。この合わせ方は一般的な方法です。必ずしも照準通りに発射されるとは限りません。

### <スライド操作：初弾の送りとハンマーコッキング> ⇒図8参照

この操作を行わないと、最初は空撃ちブローバックになります。セフティをはずしてから、トリガー、トリガーガード(図16参照)に触れず、可動部に注意しながら、スライドを的確に引ききり、そこで「パッ」と放してください。スライドが戻り、1発目がチャンバー(発射直前のBB弾を保持するバルブ基部⇒図1参照)に送られ、ハンマーがコッキングされます。すぐに発射しない場合はセフティをかけてください。

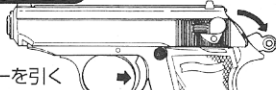


△注意：スライド操作はゆっくり行くと送弾不良になります。的確に引ききり、そこで「パッ」と放してください。2回以上行くとダブルチャージ(2発以上同時発射)になります。ダブルチャージでの発射は狙った方向ではなく、思わぬ方向に飛び出す場合がありますので、ご注意ください。

### シングルアクション

まずコッキング位置に

続いて  
トリガーを引く



### ダブルアクション

トリガーを  
引くのみ

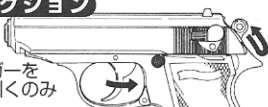


図 9

④ スライド可動範囲

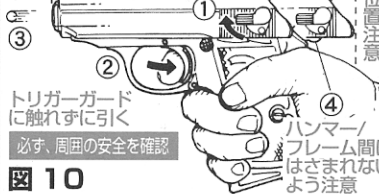


図 10

図15・16 参照)トリガーを引いてしまうと、ブローバック作動中にスライドがはずれる場合があります。トリガーガードに触れぬようご注意ください。

- トリガーを引ききると、ハンマーがダウンして、BB弾を発射します。
- 続いてスライドが勢い良く後退して前進、ブローバックします。可動するスライド・ハンマーに身体の一部や衣類等が当たったり、かんだりしないようご注意ください。特に後退するスライドに顔等近づけないようにしてください。ケガをしたり、銃作動不良を起こします。また、作動時、排気するガスを手等に多少感じます。※弾道が不適切な場合はただちに 4.固定レンジアップ(ポップアップ)について をご参照ください。
- マガジンに給弾のある限り、発射、ブローバックを繰り返します。この銃にはスライドストップ(⇒図11 参照)が設定されていますので、撃ちきるとホールドオープンして止まります。
- 発射ガスの性質上、特に20℃以下の低気温時、しばらく撃つことによりガス圧が低下してきたら、スライド作動スピードが遅くなり、弾の飛びも悪くなります。同時にスライドは後退しきらず、ハンマーをコッキングできなくなります。さらにガス圧低下(もしくはガス切れ)したら作動ストップ、いわゆる<冷え>の状態になってしまいます。この時、銃・マガジンは冷えていますので、すぐにガス注入しても、先の症状を起こしてしまいます。必ずセフティをかけて、銃からマガジンをはずし、そのまま常温に戻るまで待ってから、ガス注入を行ってください。この時絶対に加温しないでください。2.マガジンの使い方 の△ガスボンベ・ガスガン使用上の注意 部分をお守りください。※必ずガスボンベ本体の警告文もお読みください。別売スベアマガジンに交換されると続けて楽しめます。
- また上記のガス消費(ガス切れ)時、銃内に弾が残っていないと絶対に判断しないでください。続けて撃たない時は、ただちに 5.発射を終える時の処理 を行い銃を安全な状態にしてください。

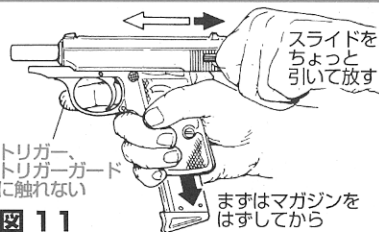


図 11

### <トリガーアクション：ハンマーについて>

⇒図3・9参照

この銃のハンマーダウンからの1発目は2通りのトリガーアクションが選べます。2発目以降はブローバックによりハンマーコッキングされるので、常時シングルアクションからとなります。

**シングルアクション**：ハンマーを、まずコッキング位置に。シングルアクション位置になったトリガーを引き、正確に発射。コッキング操作は増えますが、トリガーは軽く引けます。

**ダブルアクション**：ハンマーを、トリガーの引きのみに連動させて、素早く発射。ハンマーのコッキング操作は不要ですが、トリガーは重く、引きも長くなります。

### <発射>⇒図10参照

- ターゲットとその周囲(特に後方)の安全を充分確認してください。銃を正立(⇒図10 参照)させてから、セフティをはずしてください。
- ここで初めてトリガーガード内に指を入れ、トリガーにしっかり指を当てて、引ききります。構造上、トリガーガードを引き出すように(⇒

### <スライドストップ⇒ホールドオープン>

⇒図11参照

この銃は、マガジンに弾がない状態でスライドが後退すると、後退した位置でホールドオープンするスライドストップが設けられています。発射時は最終弾を撃つと、ホールドオープンして、弾切れを知らせます。マガジンをはずし、スライドを少し引けば、ストップは解除され前に戻ります。ホールドオープンのままマガジン交換を行い、解除すればスピーディーに初弾が送れます。

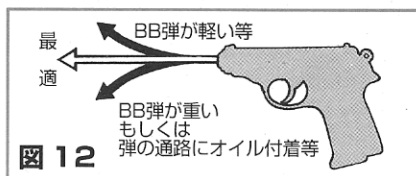


図 12

ん。逆に軽い弾でかかり過ぎですと極端なホップ・曲がり・ドロップを起こす場合があります。システムは基本的にメンテナンスフリーです。特に構造上、弾の通路(バレル内等)への注油はお止めください。油分が無くなるまで、ホップがかからなくなります。

**△注意：**レンジアップ(ホップアップ)の弾道は、BB弾の表面処理と重量の誤差、風、気温、本体製品差等の諸条件によりすべてが同様に飛ぶとは限りません。ご了承ください。また、新品撃ち初めは各部のオイル(工場組立時に必要です)のため、レンジアップが不安定な場合がありますが、しばらく撃つことにより安定してきます。

**△警告：**レンジアップ(ホップアップ)システムは銃をまっすぐ正立(⇒図10 参照)させて、条件に合うBB弾を発射した時に効果的なホップアップ弾道が得られます。よって銃を斜め、横、逆さにしたり、条件に合わない重量・直径のBB弾を発射されると、BB弾は全く予期しない方向(極端なホップ・曲がり・ドロップ)に飛んだり、弾づまり(こもった音で銃内に停弾)を起こす恐れがあります。つまり弾は、5.発射を終える時の処理を参考に銃から取り出してください。

★ここまで正しく操作しても発射しない時は **☒トラブルシュート** をご参照ください。

## 5. 発射を終える時の処理

競技、練習を終える時は、思わぬ事故を防ぐため、必ず次の **①弾抜き(銃・マガジン)** と **②ガス抜き** の両方を順番に行い、銃を安全な状態にしてください。

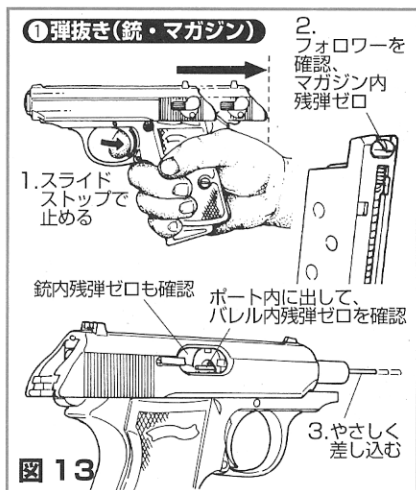


図 13

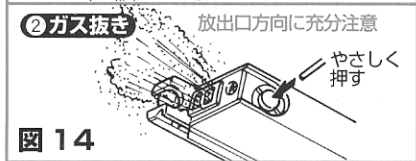


図 14

## 4. 固定レンジアップ(ホップアップ)について

⇒図12参照

この製品のレンジアップシステムは、高精度ラバーをポイントに用いた固定タイプです。最適な飛距離延長効果を得るためには、必ずマルゼン製BB弾各種(0.2g以上)をお使いください。重い弾でホップがかかり不足ですと効果が出ません。

軽い弾でホップがかかり過ぎですと極端なホップ・曲がり・ドロップを起こす場合があります。システムは基本的にメンテナンスフリーです。特に構造上、弾の通路(バレル内等)への注油はお止めください。油分が無くなるまで、ホップがかからなくなります。

**△注意：**レンジアップ(ホップアップ)の弾道は、BB弾の表面処理と重量の誤差、風、気温、本体製品差等の諸条件によりすべてが同様に飛ぶとは限りません。ご了承ください。また、新品撃ち初めは各部のオイル(工場組立時に必要です)のため、レンジアップが不安定な場合がありますが、しばらく撃つことにより安定してきます。

**△警告：**レンジアップ(ホップアップ)システムは銃をまっすぐ正立(⇒図10 参照)させて、条件に合うBB弾を発射した時に効果的なホップアップ弾道が得られます。よって銃を斜め、横、逆さにしたり、条件に合わない重量・直径のBB弾を発射されると、BB弾は全く予期しない方向(極端なホップ・曲がり・ドロップ)に飛んだり、弾づまり(こもった音で銃内に停弾)を起こす恐れがあります。つまり弾は、5.発射を終える時の処理を参考に銃から取り出してください。

★ここまで正しく操作しても発射しない時は **☒トラブルシュート** をご参照ください。

### ①弾抜き(銃・マガジン) ⇒図13参照

1. 競技、練習を終える時はマガジンに給弾した弾を安全な方向に全弾撃ちきり、スライドストップで止めてください。
2. マガジンをはずし、マガジン内に弾がないこと、上部にフォロワーが見えていることを確認してください。
3. マガジンはずすだけでは、銃のチャンバー内にBB弾が残っている可能性があります。銃口から付属リリース棒をやさしく差し込みポート内に出し、インナーバレル内にもBB弾がないことを確認してください。この時インナーバレル基部のホップアップラバープラグ、チャンバーパッキンを傷めないようご注意ください。さらに銃内部のこぼれ弾等も確認してください。

★銃とマガジン内に確実に弾がない状態を確認したら、続いて **②ガス抜き** を行ってください。

### ②ガス抜き ⇒図14参照

安全な方向にマガジンのガス放出口を向け、放出バルブを付属リリース棒等でやさしく押してください。マガジン内ガスが多量に残っていた場合、勢いよく吹き出しますので、身体等にかからないよう放出方向に充分ご注意ください。後再びマガジンを銃につけて作動しないことを確認してください。

△残弾警告③(発射を終える時は必ず確認を)：銃内にまだ弾が残っている状態で、ちょうどガスがなくなったり、冷えたりして発射できなくなることがあります。この時発射できないから銃内に弾がないとは絶対に判断しないでください。マガジンをはずすだけでは弾が銃内に残る(詰まる)危険性があります。このまま放置すると、次操作時残弾を忘れて発射してしまう危険性があります。ただちにセフティをかけ、マガジンのみにしてガスを注入するか、発射圧が戻るのを待って、この場合も①弾抜き(銃・マガジン)と②ガス抜きを必ず行ってください。マガジンがついていないというだけで、その銃内にBB弾がないだろうとは絶対に判断しないでください。(④ページ 2.マガジンの使い方の△残弾警告①と⑦ページ 3.発射の△残弾警告②も参照)

△警告：銃は給弾、及びガスを注入したまま、つまりセフティをはずさず発射できる状態で絶対に放置しないでください。

## 4 メンテナンス

△警告：分解・組立時、パーツの角等でケガをしないようにご注意ください。作業に自信のない方は当社にご依頼ください。

### 分解

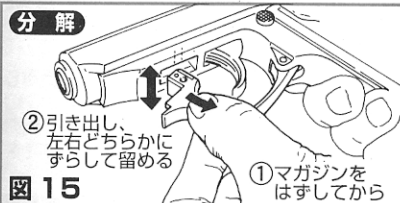


図 15

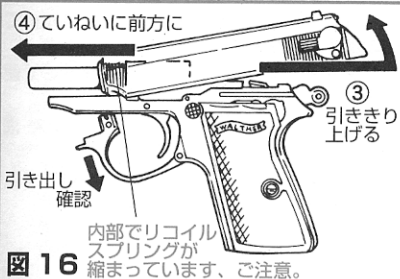


図 16

### メンテナンスのための分解・組立

#### 分解 ⇒図15・16参照

- ①まず③操作の 5.発射を終える時の処理を終え、マガジンをはずしてください。
- ②図15のようにトリガーガードのスライド側をつかみ、下に引き出してください。そして少し横(左右どちらでも)にずらして、引き出した状態で留めてください。留まりにくい場合はスライドの脱着時(下記③)に引き出した状態を保ってください。
- ③図16のようにセフティがはずれていることを確認後、スライドを引ききり、後端をていねいに持ち上げフレームのレールからはずしてください。
- ④そのままゆっくり、リコイルスプリングが伸びきるまで前方に運んでください。この時手を放してしまうとスライド、リコイルスプリングが飛びますのでご注意ください。またていねいに行わないとチャンバー外面にキズが付きます。

#### 組立 ⇒図17参照

※スライドストップとそのスプリングがはずれた場合、図17を参考にていねいに組み付けてください。またニューPPK/Sのスライド内前方(アウターバレルが通る部分)にはバレルスモウサーが圧入されています。もしはずれた場合は図17を参考にはめてください。

- ①まずハンマーをコッキングしてください。
- ②リコイルスプリング(スプリング径が広がっているほうが銃口側)をアウターバレルへ通して、スライド内前方に先端を押し当ててください。スライドをはずした角度で、アウターバレルへていねいに通してください。
- ③トリガーガードの引き出し確認後、スライドを止まるまで後退させ、フレームのレールに

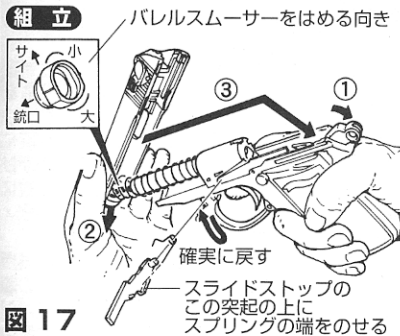
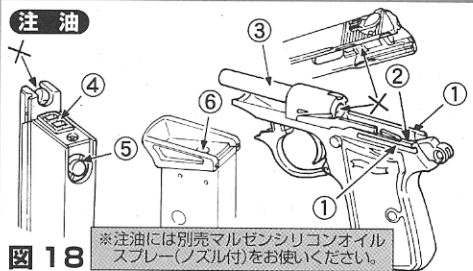


図 17

戻してください。トリガーガードを当初の位置に「カチッ」と確実に戻して、スライドを引き、正しく組立てられたことを確認してください。



**注 油****図 18**

※注油には別売マルゼンシリコンオイルスプレー(ノズル付)をお使いください。

**注 油** ⇒図18参照

ニューPPK/Sを快調に作動させるために、次の個所に別売マルゼンシリコンオイルスプレー(¥500)をおよそ1000回作動後及び激しい生ガス発射を起こした後に少量スプレーするか、ティッシュ等に染み込ませて塗布してください。

**<フレーム部>**

- ① 左右のレール面
- ② ハンマー基部
- ③ アウターバレル表面

**<マガジン>** ④スクエアパッキン表面のみ、ティッシュ等にオイルをつけて少量うすすら(内部、フォロワー部は厳禁) ⑤放出バルブ基部

△注意：命中精度、ホップアップのかかり方に影響が出ますので、上記以外には注油しないでください。特に弾の通路(マガジン給弾部⇒銃チャンパー内⇒インナーバレル内)、スライド内側のプロバックシリンダー内・ピストンには注油厳禁です。これらの部分に油分がついた場合、かなりの発数を撃ち込み、油分が飛ぶまで、ホップアップがかからなくなります。

△警告：この銃は樹脂パーツ(ABS、ジュラコン)を多用して、部分的にゴムパーツを使用しています。さらに表面処理している部分もあります。そのため金属専用オイル(ミシン油、CRC等)を使用されると、樹脂・ゴム部分・処理面が侵され、亀裂等が起こることがあります。別売マルゼンシリコンオイルスプレー以外を使用する場合は、樹脂・ゴム・処理面に影響がないことを充分確認してください。

**外装パーツの手入れ**：外装の材質は主にABS樹脂製です。表面処理している部分もありますので、汚れた時は、湿らせた布で、汚れがひどい時は食器用台所洗剤を薄めてやさしく拭いてください。使用によりエッジ(角)部の処理は取れていきます。ご了承ください。

△警告：強力な洗剤、研磨剤、コンパウンド、溶剤(シンナー等)は銃パーツを痛めますので使用しないでください。

**危険な分解**：メンテナンス・修理のため、ちょっとした好奇心であっても、**4**メンテナンスにある以上の銃の分解は試みないでください。見える範囲のネジは時々増しめしてください。

△警告：この銃は複雑ですので、不要な分解後再び正しく組立てることは非常に困難です。組み違いで操作してしまうことは大変危険です。必ず修理をご依頼ください。

**5 保管方法**⇒図19参照**図 19**

＜銃・マガジン＞と＜弾・ガスポンベ＞は必ず別々に保管してください。

△警告：保管に際しては、以下の2項目をお守りください。

- ① まず **3**操作法の5.発射を終える時の処理の**1**弾抜き(銃・マガジン)と**2**ガス抜きを必ず行ってください。続いてハンマーをダウン位置、トリガーをダブルアクション位置にしてから、マガジンをつけ、セフティをかけたください。長期保管の場合、なるべく銃に**4**メンテナンスも行ってください。ゴム劣化・錆防止になります。

- ②そして、対象年齢未満の人、操作のわからない人、ルールが守れない人の手が届かない場所を選び、＜銃・マガジン＞と＜弾・ガスポンベ＞を別々に分けて保管してください。その際＜銃・マガジン＞はこの使用説明書と共に新品購入時の箱に入れてください。＜銃・マガジン＞と＜弾・ガスポンベ＞の保管・使用場所に関しましては**3**操作法の2.マガジンの使い方にある△ガスポンベ・ガスガン使用上の注意を充分参考に、車中や日光(直射、ガラス越し共)の当たる所等の40℃以上となる場所は絶対に選ばないでください。